

孤独な老い 届けたぬくもり

標題は朝日新聞 9 月 26 日「月刊寅さん 9 月号」。腹の立つニュースが多いこのごろ、久しぶりに寅さんから元気もらった。信州松本で「寅さん」の映画を観て以来、寅さんと日本各地（一度はウィーンまで）を旅してきた。東京は葛飾柴又とともに、日本各地を寅さんといっしょに巡るのが、この映画の楽しみであった。そんな私にとって、長野県小諸の駅前が懐かしい場所でもある。



風の吹くまま気の向くまま。道ばたに出て、指に唾をつけ、風が吹いている方に歩いていくのが、映画「男はつらいよ」の主人公・車寅次郎の旅スタイルなのだろう。だが、困っている人を見たら黙っていられない性分。商売や金勘定を抜きに、ひと肌脱ぐのも寅さんである。

秋の長野県が舞台となった第 40 作「寅次郎サラダ記念日」。山里で独り暮らしをするおばあちゃん（鈴木光枝）は「オラ病院で死ぬのは嫌だ。この家で死ぬんでやす」。頑固に言っていたが、寅さんの説得で入院する。モデルとなった病院は、小諸市にある小諸病院だ。北里柴三郎の弟子だった樋口隆蔵が地域医療の充実をめざして昭和初期に開設した個人病院。瀟洒な木造洋風建築は昔のまま。

69 年の第 1 作公開から 50 年続いてきた「男はつらいよ」シリーズ。その間、日本各地は開発の波にのみ込まれた。山田監督は寅さんに似合うような農村風景を求め歩いたが、土の道を見つけるのはだんだん難しくなった。寅さんを演じた渥美清さんはこんなことを言っていたという。「もうぜいたく言わないからさ、これ以上、この国は変わってほしくないな」

北国街道の城下町として栄えた小諸も変わった。97 年には長野新幹線（現・北陸新幹線）が開業したか、小諸には止まらない。大手百貨店や都市銀行の支店が撤退、地域経済は痛手を受けた。

限界集落、地域格差、高齢化、無縁社会……。でも世の中はつらいことばかりではない。寅さんは言っていた。「今夜中にこの雨もカラッと上がってあしたはきっと日本晴れだ。お互いにクヨクヨしねえで頑張りましょう」

信州に調査に出かけた時、「渥美清こもろ寅さん会館」に行ったことも。どうも気になることがある。でも寅さんが言うように「クヨクヨしねえで」、奮闘努力していこう。

(2019 年 9 月 28 日)